

## 制作概要

ローマ時代（紀元前 753 ～ 紀元 395）は古代でも最高に秩序だった階級社会であった。日常の端々に至るまで、社会の枠組みの中できまりがあり、ファッションもきちんと規制されていた。古代の最後を飾る大ローマ帝国の栄光はローマ市民である男たちのものであった。その栄光のシンボルとして着用されたのがトガである。ドレーパリー（巻き衣）の一種で、基本的には右脇下から左肩へ斜めに巻きつけたものであるが、その巻き付け方に細かい工夫をすることによって独特なスタイルを形成した。トガにはボーダーが施され、色、飾り、巻き方など身分によって区別がはっきりしていた。

作品は 2007 年 9 月 10 日第 75 回 NDK 日本デザイン文化協会ファッションショー「Dearest Wish ～想いをかたちに～」の第 3 景フォーマルウェア部門に出品したイブニングドレスである。

ローマ時代のトガのボーダーをデザインソースに、黒を基調にした夜会服シリーズである。煌々と輝く「月光」をコンセプトにデザインした。全体のシルエットはマーメイドラインとし、黒のベルベットの身頃にラメチュールとオーガンジーを重ねたフレアースカートを組み合わせた。ボーダーの土台はサテンを使用し、その上に唐草模様を表現できるようにスパンコールの縁飾りを形作った。黒とシルバーの輝きが澄んだ夜空にスーッと直線的に差し込む月光を表現している。マーメイドラインの曲線とボーダーの直線のコントラストを強調した。

素材によって黒の色調はかなり変化するため、今後もさらに研究を続けたい。

橘 喬子

「月光」

イブニングドレス  
フェスティバルホール（大阪・中之島）



●デザインソースの資料  
『ローマ時代のトガ』  
J. アンダーソン、ブラック  
『ファッションの歴史』より

### ●縫製のポイント

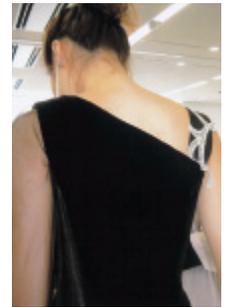
- 1) 黒のベルベットのマーメイドラインのドレスは左肩からドレープを3本胸に向かって入れ、胸の豊かな曲線を強調した。
- 2) 左脇明きにコンシールファスナーをつけ、肩からスカートまで3本のボーダーを黒のサテンで前後身頃に巻きつけるように縫い付けた。
- 3) スカートの部分はボリュームを出すため、黒のオーガンジーを下に2枚重ねて入れ、その上にラメチュールを乗せた。
- 4) サテンのボーダーの上にシルバーのスパンコールのブレードを唐草が流れるよう輝く月の光に似せて付けた。流れがとぎれないように方向性を出すのに苦労した。
- 5) 右肩のボーダーは後身頃に鍵ホックで止めた。
- 6) オーガンジーの左袖を身頃に付け、そのまま流れるようなストールにし月光にたなびく雲のイメージを表現した。

### ●使用素材

ベルベット、ラメチュール、  
ブレード  
オーガンジー、サテン

### ●アクセサリ

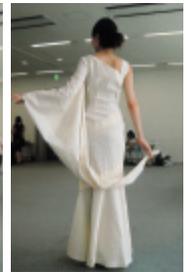
イヤリング、ブレスレット



### ●パターンメイキング

シーチングでタイトなマーメイドラインのロングドレスをモデルサイズに合わせて、ドレーピングでパターンを制作仮縫いした。スカートの部分はほぼ全円のフレアーを入れながらドレーピングし、パターンをおこした。右脇を開き、ボーダーが体の線に沿って流れるようにそのバランスを工夫した。左脇から続くストールは袖幅を活用し、自然に幅を取った。

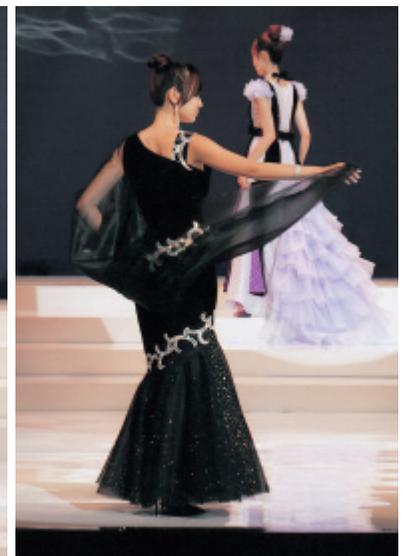
### ●仮縫い点検



フロントデザイン

サイドデザイン

バックデザイン





**橘 喬子**

イブニングドレス「月光」

第75回NDKファッションショー

2007年9月10日 フェスティバルホール（大阪・中之島）